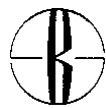


TECHNICAL DATA

仕上げの種類	1液弱溶剤形NADアクリル樹脂塗料
製品名	キクスイ SPファインコート

第4版 作成日：2018年7月18日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 仕上げの種類： 1液弱溶剤形NADアクリル樹脂塗料
- 製品名： キクスイ SPファインコート
- 適応下地： コンクリート・セメントモルタル、木部、鉄部
- 用途： 劣化部やヤニ・アク・シミ等の汚れ面、耐水性・耐湿性・防カビ性が要求される箇所の塗替え

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (23℃)	所要量 (塗布量)
素地調整	苔、藻、ごみ、塵埃、油脂分などの付着物及び劣化塗膜は、高圧水洗浄（10MPa程度）で入念に除去し、水洗い後は翌日まで十分乾燥した清浄な面としてください。				
上塗り	キクスイ SPファインコート (艶消し) 主材：16kg 塗料用シンナーA：0～1.6 L	刷毛 ウールローラー エアレスプレー	2	工程内 2以上	50～61 m ² /16kg 0.26～0.32kg/m ² (0.24 kg /m ² 以下)
	キクスイ SPファインコート (半艶) 主材：16kg 塗料用シンナーA：0.6～2.0 L	刷毛 ウールローラー エアレスプレー	2	工程内 2以上	50～61 m ² /16kg 0.26～0.32kg/m ² (0.24 kg /m ² 以下)
	キクスイ SPファインコート (艶有) 主材：16kg 塗料用シンナーA：0.6～2.0 L	刷毛 ウールローラー エアレスプレー	2	工程内 3以上	50～61 m ² /16kg 0.26～0.32kg/m ² (0.24 kg /m ² 以下)

- 工法：
 - a. 材料の混ぜ合わせ
 - ・製品は使用前に均一に良く振って攪拌してください。
 - ・希釈の必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めてください。

c. 上塗り

- 上塗材は、2回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けてください。
- 艶有、半艶仕上げの場合は下地の吸い込み差によりむらを生じることもあるため、その場合は下塗りとしてキクスイプライマーバンノウSPをご使用ください。
- 半艶仕上げの場合は塗り付け量が多いと艶が増す可能性がありますので、ご注意ください。
- 半艶、艶有タイプの上に、艶消しタイプを塗り重ねると塗膜に割れが生じることがありますのでご注意ください。
- 艶消しタイプの塗料用シンナーAでの希釈率は、スプレー塗り時で5~10% (0.8~1.6L)、刷毛・ローラー塗り時で0~5% (0~0.8L) となります。
- 半艶タイプ、艶有タイプの塗料用シンナーAでの希釈率は、スプレー塗り時で8~12.5% (1.3~2.0L)、刷毛・ローラー塗り時で4~8% (0.6~1.3L) となります。
- 希釈率は色目及び施工時の気温により変化することがありますので、都度調整してご使用ください。
- 異なる色相で塗り重ねる場合、1層目の色が2層目にブリード（色の移行）する場合がありますのでご注意ください。

●注意事項

- 施工用具・条件は代表的なものです。
- 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
- 所要量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認してください。
- 下地調整や水洗いが不十分だと塗膜剥離の原因となります。また、光沢が出ないなどの仕上がり不良になる場合があります。塗り替えでは必ず高圧水洗かブラシなどによる洗浄を行い、付着物や劣化塗膜を除去してください。
- 水洗い後は夏季2日以上、冬季3日以上乾燥させてください。
- 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工してください。
- 旧塗膜の種類によって溶剤の影響により縮みや膨れ、剥がれなどが発生する場合があります。本施工前の試し塗りで確認してください。
- 塗料用シンナーAは、弊社推奨品をご使用ください。その他のシンナーを使用した場合は、ちぢみや再溶解等の不具合が発生する恐れがあります。
- エアレス塗装を行う場合、塗装ミスの飛散防止対策を確実に行ってください。
- 塗装間隔は午前9時から午後3時までの時間帯を推奨いたします。
- 山間部や夜露の早く降りる地域では早目に塗装を終えて、十分な乾燥時間を確保してください。

成分表

● 荷 姿

上塗材：	キクスイSPファインコート (艶消し)	NET	16 kg/缶 4 kg/缶
	キクスイSPファインコート (半艶)	NET	16 kg/缶 4 kg/缶
	キクスイSPファインコート (艶有)	NET	16 kg/缶 4 kg/缶

● 上 塗 材：キクスイ SPファインコート (艶消し)

	内 容	重 量 (%)	
	アクリル樹脂ワニス	28.7	
	着色及び体質顔料	56.0	
	添加剤	1.0	
	溶剤	14.3	
	計	100.0	

キクスイ SPファインコート (半艶)

	内 容	重 量 (%)	
	アクリル樹脂ワニス	50.1	
	着色及び体質顔料	22.3	
	添加剤	3.2	
	溶剤	24.4	
	計	100.0	

キクスイ SPファインコート (艶有)

	内 容	重 量 (%)	
	アクリル樹脂ワニス	53.6	
	着色及び体質顔料	24.6	
	添加剤	3.5	
	溶剤	18.2	
	計	100.0	

性能試験成績書

種類	弱溶剤形NADアクリル樹脂塗料	
商品名	キクスイSPファインコート（艶消し）	
試験方法	JIS K 5670-2012 に準拠	
項目	規定	結果
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする。	合格
塗装作業性	はけ塗り及びローラブラシ塗りに支障があってはならない。	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合格
乾燥時間 （半硬化乾燥）	5時間以内とする。	1時間
隠ぺい率 （白及び淡彩）%	90以上	98
耐水性	水に浸しても異常がないものとする。	合格
耐アルカリ性	アルカリ水に浸しても異常がないものとする。	合格
促進耐候性	異常がない。	合格

種類	弱溶剤形NADアクリル樹脂塗料	
商品名	キクスイSPファインコート（半艶）	
試験方法	JIS K 5670-2016 に準拠	
項目	規定	結果
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする。	合格
塗装作業性	はけ塗り及びローラブラシ塗りに支障があってはならない。	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合格
乾燥時間 （半硬化乾燥）	5時間以内とする。	1時間
隠ぺい率 （白及び淡彩）%	90以上	94
耐水性	水に浸しても異常がないものとする。	合格
耐アルカリ性	アルカリ水に浸しても異常がないものとする。	合格
促進耐候性	異常がない。	合格

種 類	弱溶剤形NADアクリル樹脂塗料	
商 品 名	キクスイSPファインコート (艶有)	
試 験 方 法	JIS K 5670-2016 に準拠	
項 目	規 定	結 果
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする。	合 格
塗 装 作 業 性	はけ塗り及びローラブラシ塗りに支障があってはならない。	合 格
塗 膜 の 外 観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合 格
乾 燥 時 間 (半硬化乾燥)	5時間以内とする。	1.5時間
隠 ぺ い 率 (白及び淡彩) %	90以上	95
耐 水 性	水に浸しても異常がないものとする。	合 格
耐アルカリ性	アルカリ水に浸しても異常がないものとする。	合 格
促 進 耐 候 性	異常がない。	合 格

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではございません。あらかじめご了承ください。

施工上の注意事項

《下 地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率 10%以下、pH 10 以下で施工してください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「K S クリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- コンクリート下地の旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後に、「キクスイ浸透性プライマーE」や、「キクスイ S P パワーシーラー」を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC 板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイ S P パワーシーラー」や、「キクスイプライマーE P W」を使用してください。
- A L C やコンクリートなどで巣穴、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材「B R # 1 5」等で処理してください。
- 無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 合成皮革、ゴムパッキン、塩化ビニル製品などは、塗膜との接触を避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起きる場合があります。
- 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、A L C、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）に塗装する場合は、蓄熱や水の影響、下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることで建材の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。ご採用に当たっては最寄りの営業所にご相談ください。
- 大きな動きが予想されるシーリング部などの部位への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく施工を避けてください。
- 下地が弾性系塗膜の場合には、弾性系上塗材を使用してください。

《環 境》

- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合、（高湿度、結露、降雨等）塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が 5℃以下、湿度 8 5 %以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。

- 外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施 工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺(車や付帯設備を含む)や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 塗料は均一に防爆型ミキサーで混ぜ合わせて使用してください。
- 開缶後は、早めに使用してください。
- 材料の希釈量は所定の量により、事前の試験塗りなどで決定してください。
希釈の過多、不足はダレや隠ぺい不足、仕上がりムラの原因になります。
- 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 色、模様決定に当たっては事前に見本板で確認してください。
- 被塗物の形状、膜厚、塗回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。
特につや調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗りの場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。
ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることが有ります。
- 傷などで補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。

- 下塗材及び上塗材に溶剤系の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

《材 料》

- つや調整品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします
- つや調整品は、塗料が分離しやすいので、防爆型ミキサーで良く混ぜ合わせながらご使用ください。
- 刷毛塗りとローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
- 濃色や原色に近い色相では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クリヤーによる保護塗装を行ってください。
- 上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠ぺい性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
- 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては、防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。
- 施工部位により、傾斜壁の下端部、水切りの無い部位、窓周りで水切りが不十分な場合、雨掛りの少ない部位などは低汚染性が十分に発揮されない場合があります。
- 各シーリング材は可塑剤を含まないノンブリードシーリング材を使用してください。また、シーリング材の上へ直接施工する場合、シーリング材の種類や材齢によって塗膜が付着しない場合があります。詳しくは最寄りの営業所にご相談ください。
- 改修工事の場合、下地を侵し既存塗膜に膨れ・縮み（リフティング）などの異常が発生することがあります。事前に試し塗りをを行い確認してください。
特に、2液反応硬化形弱溶剤系塗料での改修において、既存下地が塗料用シンナーで容易に溶解する場合、縮みや膨れが発生する恐れがあるため、塗装は避けてください。

- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。
磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスクングを行ってください。

《保 管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 硬化剤は、湿気で硬化しますので密栓をして貯蔵してください。

《その他》

- 建築用仕上塗材（JIS A 6909）複層塗材および可とう形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、J I S規格品とはなりません。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート：旧MSDS）を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 火花を発生しない工具を使用してください。
- 屋外または換気の良い場所でのみとし、火気厳禁にしてください。
- 必要な時間以外は、環境への放出を避けてください。
- 製品の混ぜ合わせは、防爆型ミキサーにて行ってください。また、必ずアースを取ってください。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹼で洗ってください。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 粉じん、揮発物等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態ですっかり密栓して40℃以上の場所では保管しないでください。できるだけ早目に使用してください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。
- 保管場所、取り扱い場所とその周辺には、塗装中、乾燥中共に、熱、火花、高温体のような発火源を遠ざけ火気厳禁としてください。取扱いは、法令に沿って保管を行い、特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短期間に引火性の高い蒸気が発生します。注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床で材料の保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の服を着用してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。

- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようになしてください。